神戸市

全国に先駆けて「窓口」開設

孤立しがちな「ヤングケアラー」を支えようと、神戸市は全国の自治体に先駆けて2021年6月に「こども・若者ケアラー相談・支援窓口」を開設しました。その後も当事者同士の交流・情報交換の場をつくったり、訪問ヘルパーの派遣を始めたりするなど、支援の輪を広げています。

きっかけは、2019年10月に神戸市内で起きた痛ましい事件でした。20代の女性が、同居して介護をしていた認知症の90歳の祖母を殺害。報道によると、裁判で女性は「介護で寝られず、限界だった」などと動機を語ったそうです。

親族や職場といった周囲の理解や支援が不足するなか、女性は肉体的、精神的に追い込まれたのではないか――。事態を重く受け止めた神戸市は2020年11月、庁内横断のプロジェクトチームを発足させます。

現在「こども・若者ケアラー相談・支援窓口」担当課長を務める上田智也さんは当時、福祉局副局長で、このプロジェクトチームのリーダーを務めました。庁内の関係者から寄せられた情報や要望をベースに、有識者やNPOとも協議。「相談・支援窓口」と「交流・情報交換の場」の設置、「学校や福祉、児童分野に関わる人々への理解促進」という支援策の3本柱を決めました。支援の対象には、18歳未満の子どもに加え、18歳から20代も含めるとして「こども・若者ケアラー」と呼ぶことにしたそうです。

上田さんは「子どもたちが家の手伝いをせざるを得ないという状況はあると思う。その負担を少しでも軽くできるよう支援したい」といい、「ケアラーの家族全体を見る視点が大事になる」と話します。

こども・若者ケアラー相談・支援窓口
担当課長　上田智也さん

開設から2023年1月末までに、電話や来所、メールで計295件の相談が寄せられました。そのうち継続的な相談・支援につながったのは138件で、内訳としてケアラー本人からの相談は8件、家族からは18件、関係機関等からは112件となっています。

上田さんは関係者や関係機関とも協議を重ねながら、個々の事情に沿った対応を心がけています。「学校の先生やケアマネジャー、近所の住民ら、その状況に気付いてくれたり、理解してくれたりする大人が周囲にいるかどうかがポイントになる」と語ります。

さらに、2021年10月からは、「ふぅのひろば」というケアラー同士の集いの場が、毎月第2土曜日に神戸市青少年会館で開かれています。この名称には、「ふぅ」と、ひと息つけるような場所になればとの願いが込められています。2022年8月から、18歳未満のケアラーがいる世帯を対象に、家事や子育てを支援する訪問ヘルパーを月4回まで無料で派遣する活動もスタートさせました。

上田さんは「福祉を中心に行政内外をつなぎ、サポート体制を一層広げていきたい」と話しています。

こども・若者ケアラー相談・支援窓口
（神戸市総合福祉センター１階）
電話番号　078－361－7600
受付時間　月曜日～金曜日９：00～17：00
（祝日・年末年始を除く）
E-mail　carer_shien@office.city.kobe.lg.jp

Social Workers Day 2022

ソーシャルワーカーデーの動画のご紹介

2022年のソーシャルワーカーデーは、新型コロナ感染症拡大防止の観点より、インターネット上で開催いたしました。

ソーシャルワーク関係5団体の代表による座談会、ソーシャルワーカーのインタビューを撮影した動画を作成し、多くの方にご覧いただきました。

下記URLもしくはQRコードで本会のYouTubeチャンネルにアクセスできます。

是非皆さんもご覧ください。

https://youtube.com/@hacsw